

稲沢市6月議会での一般質問

市民病院は市民の財産

存続求める署名にご協力ください

日本共産党の服部俊夫市議は、稲沢市議会6月定例会で、①公営公設の稲沢市民病院のあり方について、②石油関連物資の物価高騰、資材不足に対する対策について質問しました。

救急搬送は市外からも

地域健診センターも拡大

先の12月議会でも取り上げましたが、あらためて稲沢市民病院の役割を質問。まず「断らない救急」で昨年度の救急車の受け入れは3408台で、うち4割が入院に至りました。また市外（西春日井・海部東部・一宮市など）からも受け入れています。

「ナースカー」の取り組みに
施設からも高い評価

急」で昨年度の救急車の受け入れは3408台で、うち4割が入院に至りました。また市外（西春日井・海部東部・一宮市など）からも受け入れています。

収益を高めるうえで健診など累積的に受け入れています。昨年度の受診件数は8942件、内人間ドック1834件でした。健診

昨年4月から始まった「ナースカー」は、高齢者の方の尊厳を守り支える地域活動の一環です。高齢者施設から相談の連絡を受け、ナースカーで看護師が駆け付け、取り組みで、高齢者施設との連携も深まり、最近では、感染管理や摂食嚥下障害看護、皮膚排泄ケア認定看護など、より専門的な資格

「あしたば」に寄せられたの声

訪問看護「あしたば」を利用された方の満足度調査では、「とても満足」と「ほぼ満足」が合わせて8割にも上っており、次のような声が寄せられています。

◆いつもありがとうございます。

◆頼りにしております。

◆コメント多く、なかには次のような感謝の声もありました。

を持つ看護師が出向き、看護に関わっているので、施設の方からも高い評価を得ていると病院事務局長が答えました。

病院の経営形態

あり方検討委員会で議論

今年2月の病院経営強化プラン
評価委員会では、経営形態の考
え方について「現時点では法適用に
よる運営を継続することとするが
他の経営形態についても情報収集
に努めていく」としています。こ

危機感持ちながらも

やりがいを感じるは6割

あり方検討委員会への参考資料として、市民病院職員アンケートが取り組まれました。そのなかで職員の85%が「経営に危機感」を持つていとありますが、しかし同時に、同じアンケートで、危機感を持ちながらも現在の業務に対して「やりがい」を感じている職員も半数以上6割近くいます。これに対し、病院当局も「一般論として、豊富な経験を積んだ50代60代のベテラン層が、これまでの知識・経験・専門性を活かして市民の命と健康を守る現場で力を発

あり方検討委員会で示された資料について、いくつかの問題を指摘します。

業収益比較が示され、他病院に比べ給与が高いために、100%以下しかし年齢構成は考

あり方検討委

資料の問題点

これは流動負債と流動資産の比較で見るべきです。流動比率とは、1年以内に返済しなければならぬ流動負債に対して

ですが、稲沢市民病院は、2024年度195%なので、病院経営という点では評価できるものです。

②職員給与と費対医

れていますが、逆に資格のない看護助手などは少ない。つまりそれだけ手厚い看護が行われているのです。

物価高騰で市の対策を求める

消費税一律5%減税が効果的

中東情勢などで、エネルギーや石油製品の価格高騰と資材不足が日本経済と国民生活に甚大な影響をもたらしています。まずは何よりも消費税の減税が必要ではないかと迫りました。また、稲沢民主商工会からも「消費税5%減税を国に求める意見書」の請願が出されていますが、日本共産党市議会だけの賛成で、市議会では不採択となりました。

一般質問では、市指定ゴミ袋の扱いについて「小売店の販売状況を確認しながら期限の延長も含め慎重に判断、対応していく」としましたが、介護分野や農業などに影響が出ていることは、市として把握しておらず、中小業者への直接支援も行っていないません。市発注工事での資材不足による工期の遅れは発生していないと答えています。また市民病院では医療物資の無駄遣いをなくすよう徹底しています。